
I Sに変革者・・・の急け者

紅刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ISに変革者・・・の急け者

【NZコード】

N7469Y

【作者名】

紅刹那

【あらすじ】

入学式に向かう途中電車にはねられて死んでしまった大学生がISの世界に転生するお話です。

処女作&駄文しか書けないので精進していきます。

プロローグ

(だるい・・・)

3月4日　電車の中には、周りはスーツを着ているサラリーマンや新学期だ、と言っている学生がいたりする。その中で外を眺めている18歳の青年はぼやいていた。

彼は、普段電車は使わず自電車で中学から高校まで、通学していたが今年から大学生で今スーツを着ている。彼は大学の入学式に行く途中なのだが、新たな期待に胸を含まらせるとかではなく、入学式がためめんどくさいと考えていた。だって長つたらしい校長のあいさつなんて嫌だろ？

じゅうせつひなうかな…あ、ここでも乗り換えた
木村 晓きむら あさるであつた。

(びしきみうかん…あ、ここでも乗り換えた)

電車から降り 階段を上がり 視覚障害者誘導用ブロックの所で電車が来るのを待つ

(あ きたあ 「ドゴッ」・・・・・え?)

突然後ろから押されて落とされる感覚におちる、そして、目を動かすと電車が猛スピードで・・・

ん?

辺りを見渡してみるが、そこには電車もなく駅のホームでもなく、ただ白いペンキを天井・床・壁に隙間なく塗ったような空間の中で、白い布のような服（ギリシャの神の服のような）を着た女性がいた。そして、

「すいませんでしたああああああ-----！」

「きなりうるさい人だな

「すいません…」

ショボくれた、そして心読まなかつたか？

「一様神様なんで、実はこちらの不手際であなたが死んでしまつたんですよ。」

「へー 後ろから押されたけどあれのこと？」

「はい…」

「へー

「怒つてないんですか？」

怒れば生き返えさせてもらえたつするの？

「あなたの体は、グシャッひとつぶれてしまつてるので不可能です…すいません」

じゃあ、どうしようもないじゃん。連れて行かれるのは天国？地獄？

「いえ、あなたが行くのは別の世界です。こちらの不手際で死んでしまつたわけですからもう一回、人生を歩んでもらいます。」

えーだるい魂消滅とかじやねえの？

「嫌なんですか？」

だつてこいつのつて死亡フラグ満載な所に飛ばされるんじゃね？

「そうですね、そしてもう決まつているんですよ。」

なーんか死亡フラグな予感

「そりですかね？インフィニット・ストラトスですよ、あなたが飛ばされる世界は。」

ISという女性しか動かない機械ができて、主人公がISを動かしてしまつたっていうアニメ化された奴？

「はい」

まあ ほんと現代社会とおんなじだよね 死ぬ確率はそんな高
くないかな?

「そうですね。今回こちらの不手際なんで能力や願いが5つ『え
る』ことができます。あ、今までの記憶は引き継いでいるので、あと、
もうこちらで主人公と同じくEIS動かせることになっていますので、
かなえられる願いは4つですね。」

「え? なんで動かせるの?」

「え? 先輩方は転生者が来たときに一番多い願いがこれがつた
ので、早めにつけてしまいましたがいけませんでした?」

まあ、憧れるけどもメンドクサイことが起きそうですね…まあいい
や、1つ目は開発チート 2つ目はGNZドライブの入手、えーとア
ニメで使っていたオリジナルのやつ5つで。

「はい。3つ目は?」

3つ目は経験値急増蓄積かな?

「えーと、すこせんどういった能力ですか?」

RPGのゲームとかだと経験を積んで強くなるけど、俺の場合人
の何倍の速度で経験を溜めることができて、何年たっても衰えない
ってどこかな。

「はい、アニメとかラノベとかで見なかつたので、どういう能力
かわかりませんでした。」

神様もラノベとか読むんだな…

「はーーもうゴーリーンとか面白くてーー主人公がなんで説明なしにゴーリーン動かせるんだよとか

----- 最後に出てきたあれとか続きが早くみたいですねー！」

やっぱ趣味の話とか饒舌になつたりするよね、そして長い…

「すいません。で4つ目は？」

んー 向こうについてから考えるとかだめ?

「まあ、いいです。連絡手段とか携帯に入れといつよろしくでしょうか?」

んー 携帯手に入れたときになぜかアドレスが入っているという形でお願いできます?

「はー、いいですよー」

ん、いろいろあんがと

「いえ、では次の人生では」迷惑かけないよつじします。では

その言葉を聞いた瞬間黒い穴がでてきてその穴に吸い込まれた

そして

「がんばりましたね、元気な男の子ですよ。」

本当に転生したよ俺

プロローグ（後書き）

誤字、脱字、感想等あればよろしくお願いします

今幼稚園児です

俺が転生してから4年たつた。え？その前はないのかつて？無理だつて赤ん坊のやれることつて寝る食べる寝るぐらいしかないんだ。（食べるじゃなくて飲むか？）それに作者にそんなこと出来るわけないだろ？ただでさえ面倒なのに・・・・つて作者つて何だ？まいつか。

俺の名前は前世と同じく木村 晓だ。あきひる今は保育園児である。

で神様からもらつた能力だが積極的に使つてない、使う気もない。というのも1つ目の能力開発チートは、ISができるのなら技術者でもなれば食つていけるだろ？って思ったからだし、2つ目のGNドライブは、そりや開発チートもらつてんだからガンダムつくつてみたいたが、4歳児がそんなの持つていたらおかしいので前に父親に買つてもらつたGPS付き携帯に入つていたアドレスで神様と連絡を取り「必要になつたら届けてくれる？」とお願ひしてみた。ではい。4つ目の願いには入りませんのでしんぱいしないでくださいね」といつてきた、

「話とか聞いてもらつてもいい？こつちで事情知つている人とかいないからさ」

「けつこうこつちは暇なことが多いのでいつでもいいですよ」といつつててくれた。

そしてまだ、4つ目の願いは考えていない。

3つ目の能力の経験急増蓄積は、最初からチート能力持つていて使つたところをみられたり、ばれたりすると厄介事になりそุดか

ら、周りにいる園児たちとほぼ身体能力は同じである。

まあ、荒事が起きた時逃げられるように足は鍛えているが。

で、今木陰で寝転んでいる。だつて実際年齢20歳以上のやつが4～6歳児と一緒に遊ぶつて、気が滅入る。というわけで今日もね

y 「あの・・・・・・・・・・なんだよ

s i d e 織斑 千冬

きょうは としたのひとたちとあそんでみよう とせんせいが
いつて みんなぐるーふをつくりはじめた。わたしは たばねちゃ
んじぐるーふになつたけど ほかのみんなはこいつよつとしな

せんせいがこいつにきて「ねえ」とはなしかけてきた けどたば
ねちゃんは「つるせー」つていつたでもせんせいはつづけて「あの
木の下にいること組んできてくれないかな?あの子も友達いないの、
だから友達になつてあげて?」つてせんせいがいった。

だからこいつもひとりでいるのかな? おどもだちがすくないのな
らすくないものどうしあともだちになれるのかな?

わたしのせこでこわがれるかもしねないけど。

s i d e o u t

あーなんか二人組がこっちに来て黒髪の女の子が俺を見下ろして
いる

「わたしはおりむら ちふゅつていいます。」

・・・おりむら ちふゅつて織斑 千冬か? 原作キャラジヤン・
・でも自己紹介されたら、返さんとあかんよな 僕は起き上がりつて

「あー木村 暁記憶あの片隅にでも置いてくれ。」

「ほらたばねチャンもあこかつして。」

「えー めんどくさいよー」

・・・「ん確定 後ろのやつは篠ノ之 束だらうな

「それに こんなやつとともにだらになつたて いいことないよ。
おたくで キモくて いんしつで ねぐらりそつだもん。」

毒舌設定ははこの頃でもあるらしい、きもい以外は同意してもいい
が俺つてそんなにきもいだらうか?

「で何の用?」

とつあえずかかると面倒なことになつやうだ

「おともだちにならへへ..」

「どうしたら友達になれるの？」

前世から思つていたことだがどこからが友達なのだろうか？そのことをクラスメイトに聞いてみたら一緒に遊びに行くのが友達・他の家に上がって遊んだり泊まつたりするのが友達、中にはしゃべつたら友達というやつもいた。

俺は、誰かと遊びに行つたこともないし、誰かの家に行つたこともない、しゃべったのは学校での発表での意見や必要事項の連絡ぐらいだ。

まあ 寂しい奴だと思えばいいけどさ、束が言つたこともあながち間違いじゃない。（アニメとか好きだしな）

「あそべばいいのかな？」

「何かしたい？」

「おまえみたいな ねぐらとあそぶなんてありえない。」と言つて腕に抱えたノートPCを立ち上げる束

「わたしは……その……したいことがおもいつかない。」とこつて束のぼうを見るで束が「だったらたばねのPCみればいいよ……そうしよう……」とこつて強引に袖をひっぱり隣に座らせる。

「じゃ 僕は寝る。」とお、「おまえにはなにもつてない」あつそうですか

いつもして帰る時間になるまで俺は寝て 織斑 千冬は篠ノ之 束のPC画面を見続けていた。

夜

「もしもしー
神様今ひま?」

『はいはい暇ですよー。異常がなれ週末で新しい世界でも作りつ
とじてました。』

「暇だからつて新しい世界つくるつて大事じやないのか？」

『こえこえ、どうもんの映画にてきた創世セットで作るので半田あれば十分です。』

「・・・ドラえもんが神の頂点なのか?」

『まあ死神だつたり創神だつたりいろいろいるんですよこっちには。』

「ブリー・チとかな世界もあるのか？・・・」トモアハニヒルヒジチャ
なくでや」

『何なんですか早くしてください』「ひひひひ急いでいるんですか
『ひ

「・・・やつを隠だから世界つぶやうとしたとか言わなかつた
か?』

『後輩がちょっとへましたようです。でそのサポートしなくちゃ
ならなくなりました。』

「ああ、じゃあ 今日原作キャラにあつたんだけどやば」原作
ブレイクしてかまいませんよ?』なんでも?』

『あなたがいるのは原作とは違ひの並列世界ですから、まあ
原作ブレイクしてしまっては何が起きるかわかりませんが。』

「ふーん」

『あと原作とは少し違つたことが起きるかもしれません。』

「たとえば?』

『そうですね。織斑千冬と織斑一夏の年齢差が違つたり、原作で
はミサイルが飛来していく数が200ではなく多かつたりするかも
しれません。』

「そなんだ。まあ何が起きたも巻き込まれなきゃいいだけだし、
後輩助けてきてあげなよ神様』

『一様名前があるので言つりますがアテネです。神様では味気
ないですし信仰心もないでしょ?』

「当たり前やがないか。命は助けと貰つて感謝はしてゐけどなん
で信仰せこやならん。というか手違いで殺されたし。」

『まあ、信仰があたってもなへてもどひでもいいんですけどね、
仕事ですし。』

「まあ、仕事がんばつてアテネ……つて首都との名前じやね?」

『被つてこいるだけですよ。では『ピッヂー・ジー・

「原作ブレイクねえ……まあ関係つくつたところで大きくな
ることはないだろうな。」

今幼稚園児です（後書き）

「んにちは 紅刹那です

今は竜頭蛇尾の勢いで書いてます（それじゃあかんだり

こんな駄文しかかねない作者ですがどうかよろしくお願ひします（
それって一番最初に書かにやならんのじゃね？

幼稚園では前まで1人で木陰で寝ていることが多かつたが、ここ最近は1人ではなく3人になつていていた俺と織斑と篠ノ之である。あれから3日くらいたつが何か進展があるわけではなく、俺は寝て、篠ノ之はPSのキーボードを叩き織斑はPS画面を見つめる。他の園児たちは、遊具で遊んだり砂場で小山を作つてしたり、でときどき織斑が行きたそうにそわそわしている。

「混じりたかつたら混じつてきたら？」

「だつてみんなこわがるから・・・」

確かに織斑はツリ目だから睨まれているよつとも見える。だつた
ら・・・

「ちよつと来てくんね？」俺は立ち上がり園児達が多い砂場に向かう

「え？」

織斑は戸惑いながら俺についてきたそして

「はい、ちゅーもーっくーー！」

といつて園児がこちらをみると同時に織斑の後ろに回つ（足鍛えておいてよかった）田のあたりの皮膚を上、横、下とひぱつたり回したりしてみる。

田が怖このなら田を面白くしてやればいいんじゃね?って考えた
わけだ俺は。そして

「 「 「 「あはは」 「 」 と園児達は笑い「おもしろいかおー」 「
もうこっかいやつて」とか言つてきた。

「ねえ、こっしょにあわほ?」と誰かがいい

「うんー」

ふー失敗したらどうしようかと思つた・・・

で俺はもとの木陰へと帰る・・・え? 織斑達と遊べつて? これ以上フラグ立ててどうすんの? とこいつ幼稚園児と遊んで俺が楽しめると思つのか? P.S.Pでアーマードコアやつているほうがまだましじゃね? とこいつかそいつのほうがおもしろい。

つて篠ノダビリじよつ。まずい俺が織斑を自分から奪つた形になつてしまつ。俺の計画では篠ノ之もついてきて2人には園児の輪に入つてもらつつもりだつたのだが・・・これでは一人孤立してしまつた。や、び、あ、い、えーと・・・

「織斑が砂場で遊んでいるけど行かないのか?」

「や、び、りしてこてなこつての? ばかなの? しむの?」

「馬鹿ではあると思うけど死ぬ気はないです。そしてみんな
い。」

「フン」

それから篠ノ之は今までと同じようにPCのキーボードをたたき続けた。ただ今までのキーボードは流れのように音を奏でていたが、この日は力押しでたたいているような音が聞こえた。

それから次の日、今日も俺・織斑・篠ノ之の3人が木陰にいた。途中織斑は園児から声をかけられ遊ばないかと誘われた。その時、織斑が

「2りもいつこ」

と織斑がいってきた

「ちーちゃんがいうならいく

よつしゃああああああ。これで篠ノ之は孤立しなくて済む。そして俺は篠ノ之からターゲットから外される。将来EISつくつて世界征服しようとすればできるからなこいつ。

そして、俺は安心して日々を寝て過ごすことが・・・「そもそもへんもきてよ」・・・え?

「W h y?」

「え?」

「声かけたのつて篠ノ介とやつちの子だよね？」

「ちがつよ。たばねちゃんどきむりへんのだよ。」

「これ以上フラグを立ててはいけない、そんな気がする。」

「えーと、これからお腹寝しないこと俺は一日の睡眠時間20時間を達成でき」「ちーちゃんのこいつとはせつたいなの、ついてこなかつたらつぶすよ?」はい遊びまじゅつ・・・

なんでだろひつ白に悪魔がいた気がする。

んで、かくれんぼをする」と言つた。

参加者は園児13人（俺も含めて）で鬼は織斑とさつきの声を掛け始めた園児そして現在スタートから1~8秒経過、あと1~2秒のうちに隠れなくてはならない。

よし木の上か屋根の上に登ひつ、そうすれば見つけられひつ木なら寝起きるし、屋根の上なら向まついた。ところと木陰で寝ていたので屋根の上に登る。

え？びつ登るのがつて？この幼稚園2階建てでハシゴが2階の壁

についてある。しかし危険防止のため園児には手が届かないが、俺は足を鍛えているため跳躍で手をハジゴに引っ掛けることが可能である。3つ目の能力で足だけは鍛えていた成果が今出た。そしてのぼって・・・

篠ノ之がいた。

「…のたのめりやうとした」

「アーティストとしての迷ったのか？」

「跳んで」

「あつそ、でも」」はわたしのかくれば。
どうかいけ」

しかたない 物陰にでも隠れるとしようかなと思つてハシ「」を降りはじめ・・・「ちよつとまつた」なんか声かけられた。

「なに?」

「・・・なんでおいらないの？」

「何に対しても？」

「たいでいいバカつていわれたらおこるでしょ」

「本当の」とじゃね？」

「じかくがあるの？」

「それもあるが、篠ノ介が俺をバカって思つてゐるならそれが俺の存在つてことになるんだろ?」

「じゃあ、あんたはわたしをどうおもつてゐの?」

「うーん・・・織斑には心を開いてゐるけどそれ以外の人はどうでもいって感じな人」

「ちがうよ

「ちうなのか?」

「わたしがここをひらいているのは、かーちゃんのほかにまづあちゃんといつくなだよ」

あれ? もう一夏と算つて生まれてんのか? これがアーテネの言つて
いた原作とは違つたことが起きるとこのはじめのことだらけ。

「つそ

「なにそのへんじ

「いや俺関係ないじやん

「そうだけど、あんたはあたしじばかとおもわれたままでいい
わけ?」

「べつこないよ。そういう風に見られるのが嫌になつたら、変え
ていけばいいだけだと思つし。大変そうでやりたくないけど。」

やつに終わったときトカラ「やむいへとみーひなー」つい言わ
れた。

やつこえばかくれんぼの最中だつたな…

「あんたのせこでわたしまでみつかるじやなこ…」つて篠ノ之
が大声をだしてしまつて「そこにはねりやんもこゆんだ
できて
てー」つて織斑の声が聞こえた

「あんたのせこでみつかつたじやない」

「見つかるのが嫌なら出でへぬなよ」

「おーちやんがでてきてーつてでてこくしかなこよ」

どんだけ百合なんだと前は

そして、せんせいに園根は落ちるところがあるからもつとねなど
しかりを受けた

帰り道に篠ノ之から蹴つてしまつてしまつたのは不運
だと思つ

幼稚園の日々（後書き）

んー 篠ノ之束じつじょつかねえ
なんかシンデレ化してきた

今日も木陰の中で寝ようとしていたのに織斑のやつ最近また俺を誘おうとしてきた。

あの田から、遊び仲間が増え笑っている姿をよく見かける。あー やだやだ。

え? 何がいけないかって?

だって、子供達って相手にすると疲れてくれんだじえ? 例えば、最初のうち熟語やりことわざやら知っている言葉(子供達はまだ覚えていない)を言つて言葉が通じなかつたり、それなに? って言われていちいち説明するのがメンドクサイ。

篠ノ之の方は織斑とは遊びたがるが他の子たちとは遊びたがらない。で、子供たちの人間関係を崩すわけだ。

あそこから、関係を作るのは難しい、「嫌な奴」というレッテルを貼られていると思う。もともとかもしれないが。

どうじょうか?

で今の時間はお絵かきであつたりする。

俺は前世の記憶があるから、ガンダムやらアーマードコアの機体やら書いていたりするわけだが脳内に、数式やらなんかよくわからぬイメージが出てきたりする。たぶんこれが開発チートの能力なのだろう。で紙の裏側にその数式やらイメージやら書いてこる。

「なにかいてるの?」といつて紙を覗いてきた織斑が言つ。俺は書くのに夢中で聞いていない、今のうちに書いておかないと忘れてしまうのでは?と思いつつやつぱあこがれるかな

「すいこもじがおおいね ねえたばねちゃんなんてかいてあるのかわかる?」

「………… 黙り込む篠ノ之

「たばねちゃん?」

「…………おこ」

俺は書くのに夢中で聞いていない

「…………おこー

俺は書くのに夢中で聞いていない

「…………おこー

……

俺は書くのに夢中でき」）「パンツ

「いてつ

ハリセンで叩かれた。なんぢん

「なに？』

「『れあんたがかいたの？』

「そりだけどなに？』

「もつとみせてもらつていい？』

「いいけど・・・・・・・・・あ やべみせけやつたよ さすが
にこの歳では篠ノ之もわからないだろうと高をくへつっていたが、こ
いつ原作じゃ天才なんだ。今書いた数式やイメージがこいつには分
かつてしまふ可能性がある。というか真剣に見てているのは分かつて
いるのだろう

一 波乱ありそつた予感 大丈夫か俺？

今回少なかつたかな？

小学校へ

前の話からいろいろと篠ノ之が話しかけるようになつてきて、原作介入確率が高くなつてきあがつた。

メンドクセニー

さらに1学年違つから、幼稚園に残ろうとするは卒業式は潰そうとするは・・・止めるのがきつい。それで、卒業してからも幼稚園で待ち受けて一緒に帰ろうとする・・・ハア

それで小学校は別にしようと家より離れた学校選んだら、あの糞野郎（この場合糞女か？）が工作しあがつて同じ学校になつてしまつた・・・

入学式何があつたか聞くかい？聞きたい人は聞いてくれ（もしくは読んでくれ）

今俺は今年から入学する学校の体育館にいる。

そう、あの天才（天災）のいる学校だ。

まあ、かかわらなければどうということは・・・といふか登校拒否していいだろ?前世じやそれなりにまじめに学校に通つていが。登校拒否している一ート達の気持がわからぬもなし。鬱だわ入学初日から・・・

で、目の前に広がっている光景がすごい。花火がバンバン飛んで、ラッパが窓が揺れているほどの大音量で鳴り響き、さらに大抵「入学おめでとう」とか書いている看板が「入学おめでとうーあっくん」とか赤いペンキで乾く前につるしてしまったのかところどころ垂れているのが書いてある。もう血で書いたんじゃね？つてぐらい赤かつた。時間がたつにつれ黒ずんでいつたけど・・・血じゃないよね？

で、そんなことをするやつは俺の知っている中で一人しかいない、
というか思いつかん。

「お、ベイビーハーフ」云々――――――――――

なんか篠ノ之が世界記録変られる速度で突っ込んできた。それに 対して俺は篠ノ之の腹をなぐつてやる。

(。o。) = (- ;

顔文字からはわからんだろうがまあ世界チャンプ候補のボクサーのパンチぐらいだと思つてくれ、なんか真似してたら身に付いた。

「ひどいよあっくん！ハグだよハグ！おめでたいことがあったら親しい人とハグするのは常識だよ！！あっもしかしてあっくんはキスがあのぞ」 「ブルルルアアアアアアアアア！」 「ゴシフ」

「何がおめでたいの！？血みたいな字でおめでとうと書かれてもちつとも嬉しくねエよ！他の子怯えてるし、つるをこし、迷惑千方百だろ？！そしてハグつて歐米かよ！」

「なかなか古いネタを使つてくるねあっくん！？」

もう一度殴つて篠ノ之を沈黙させ、入学式は、看板やら花火やらを撤去して開催された。

ちなみに篠ノ之は織斑から〇 H A N A S H I されたり
しい。

「束、どうして放課後まで待てなかつた

「だつてー」

「放課後になつたらお持ち帰りしようと言つたのは束だぞ？そしてお持ち帰つたら」

「ちーちゃんと束さんの魅力であっくんを い ち こ ろ 」

それからまた篠ノ介は氣絶したとか「やめてくださいすいませんでしたスマセンデシタスマセンデシタスマセンデシタ――」
――「とかうわ」とつづべやっていた。

小学校へ（後書き）

今週から研修です。

次は1・2月といつとなるだらうかと・・・

現在中学生

今俺は町はずれの「ゴリラ」捨て場で「ゴリラ」を漁つてこる。別にホームレスになつた訳ではない。

現在の俺は中学2年生なのだが、中学に入つて機体をつくり始めたのだが、まだ完成していない。技術的な問題ではなく、資金的な問題である。

中学2年のこづかいなんてたかが知れている。配電コード、電子部品、装甲、いろいろ必要なのが、専門店やネット販売で全部そろえられるわけがない。

とこづくわけで、資金面の問題を「ゴリラ」捨て場でどうとかじょうとしている。

まず機体に使えそうな部品を集めると、直せそうな機械を集め る。

直せそうな機械は、直してリサイクルショップやバザーなんかで売つて資金を集めている。売つた金額は結構な額になつていると思う。

(まあどうでもいい話だが、こんなところで「ゴリラ」を漁つてているせいか学校で、汚いだの・臭いだの言われ印象は良くない。そのため友人関係もほとんどない。)

俺の記念すべき最初の機体は「CCR」(コア)と名付けた。形状はアーマードコアネクサスの初期の機体で、ジェネレーターにはG

ドライブを想定している。

え？〇ガンダムじやねえのかよつて？

○ガンダムは、GNファザー、ビーム兵器、Eカー・ボンなどの高技術をもつているんだ。そこが問題。

今の俺には金がない。で、Oガンダムを再現するのにかかる費用を計算してみた。

（） 悲しいねバジーナ うん無理（

まあ、今ある方法でつくっていくしかない。

で、機体状況だが完成度70%ちょいといふところである。つくり始めて1年と10ヶ月ぐらいだった。

まだ、左腕部が完全ではないし武装は初期武装を想定しているがレイダー（C R - W B 6 9 R A）以外はない。

心もとないがエアガンを改造し、小型化・連射強化・威力強化してガンダムでいうところのバルカンを作成。カテゴリーはインサイドとエクステンションにして取り付けてある。形状はハンドガンの取っ手をなくして、3本並べ後ろの方に弾薬（パチンコの玉）の箱があるような形だ。

威力はコンクリートに1cmめり込むつてところだ。

推進力にはGN粒子のフォトン崩壊現象を使い、ブースターは排气口の奥の方に小型のGNコンテンサーとエネルギー・ケーブルをつないである。

装甲は、その辺に放置してある車から抜き取り、溶接機でつなげたりしている。それにGN粒子を吸収させ防御力をあげ、軽量化にも成功している。

こんな感じだろうか。結局のところ性能なら第一世代のISに負けている。現代兵器でも上回ってはいるのだが数で攻められれば、負ける。

「こちらのアドバンテージは、GN粒子の通信妨害・レーダー妨害・質量減少・慣性力の減少ぐらいだろうか？

だが、慣性力の減少・レーダに映らないステレス性能はISのもあるはずである。たぶんだが質量減少も幾分があるだろう。

だとすると「CR」は白騎士事件の時に出さない方がいいのかかもしれない。そもそも「CR」をつくったのは、アテネが言っていた原作とは違うということが白騎士事件で起きるかもしないからである。

で、今のスペックだとやばい。ミサイルは何とかなるかも知れないが、ミサイルを撃墜した後に各国から戦闘機やら巡洋艦やらうじやうじやでてきたはずである。

それらと対峙することになると、いくら俺が普通ではないとはいっても生身の人間だ、銃弾で撃たれば死ぬ。それに相手を生かしたまま倒せるほど余裕もないだろ？。

遠くから様子を見て危なくなったら助けて、ひとつと姫国戦闘機が来る前に、逃げる。

うん。これでいいこうか。

『ブーブー』

「やべっ、道場の時間過ぎてる」

俺は携帯のアラームを消し、近くに止めてあつた自転車で道場まで走る。といつても、もう遅刻だらうが・・・

小学6年の終りぐらいまで織斑に誘られ続けていたのだが、無論、めんどくさうなので断り続けていたら業を煮やしたのか、織斑が

真剣持つてリアル鬼짜っこになった。

あれ？

Q なんで真剣持ってるの？

A 道場からもらった

Q なんで振り回せるの？

A 稽古しているからな

らしい

こいつもチート能力もつた転生者か！？ とかおもつた。

まあ、経験値急増蓄積のおかげで、高校生とも互角に近い試合をすることができる。

織斑は国内優勝候補に全連勝してたが…………。

うん。 チートだ。

で、今道場につき自転車を止め道場に入るところには、

鬼がいた。

「誰が鬼だ。」

「なんで心読めるし。」

ほんとなんで？

「顔に書いてある。で、遅れたわけは？」

「『三捨て場で三回収して』シユツ』……」

俺は危険を感じ、反射的に後ろに下がったそして手前を何かが横切つたので見てみると、真剣だった。

「まったく、なんで私の剣は避けられるのにお前は不抜けているのだ？」

「俺が不抜けているのは何時ものことだ、そしてなぜおれを殺そうとしたし！？」

「私は、時間が守れない奴と不抜けている奴は嫌いだ。」

「だからつて殺そうとするか？」

「避けただろうが。それに峰打ちだから安心しろ。」

よく見ると織斑が持っている刀は逆向きだった。

「安心ねえ・・・」

できないぞ俺は。

「それに木村さんたちからお前のことを頼むといわれているのだ。」

俺の両親は今ドイツで研究をしている。母さんがドイツ人で父さんが日本人。

なんでも研修で来た時に知り合い、付き合いでしたらしい。

母の眼が紅く俺の眼も紅い。それ以外は日系人の黒髪に黄色い肌である。

俺はどこぞの心靈探偵の糞父親でもないし、運命で主人公になれないキレやすい奴でもない。

「この眼を小学生の時に、怖がれたり、気持ち悪がったり、からかってきた奴がいたが、からかつてきただ奴らは、ちやんとその言動や暴行を録音してぶん殴つてやる。

それども懲りない奴は、翌朝「ミミ箱に頭から突っ込んでいる」という奇怪な現象に襲われたらしい。

なんというかこんな転生してぐーたら生きているのに、それでも育ててくれた人たちを馬鹿にした奴に、なにもしないというのは出来ない。

正義感とか良心とかではなく、ただ単純にムカつく。だから殴る。

「それにお前を殴るという楽しみが増えるしな。」

「と今は会話中……つて

「おまつそれ、虐待。」

「大丈夫だ。阿呆の躾と言つてある。さて、躾ついでに死合いもしつくか。」

「待て字がちゅ

それから、躾といつ名の虐待が始まった。

「いてえ・・・」

「大丈夫か？アキにい。」

「大丈夫に見えるなら眼科行け。」

今道場から出て座り込み織斑一夏とで 織斑千冬と篠ノ之簾を待つて いる。

そして俺は織斑（千冬）の方に躰といづ名の虐待を受け体の至る所に痣がある。

「でもすげえよアキにい。千冬ねえから一本取るなんて。」

「まあ、な。」

「30試合もして1本しか取れないとは情けないと思わんのか？」

いつの間にか鬼がうし』『ゴンヅ』・・・ぐーで頭殴られた。

「また、顔に出てるや。」

「俺の体は崩壊寸前です。」

マジで

「フン、まあいいだろ。」

やつた許してくれた!!

そして、篠ノ之箒がきたので4人で帰ることにする。

ちびっこ一人は前で会話している。

いつもなら篠ノ之束もいるのだが。

「なあ篠ノ之最近見ないナビどうした?」

「なんやうパワードースーみたいなのをつくれてないしー。」

どうやらむかひの白騎士事件が起きるらしい。

懶(けい)しきらえでもいいから完成させておけばいいが。

「あとアキラ、いい加減 織斑・篠ノ之ではなく名前で呼べ。紛らわしいだらうが。」

「織斑それ・・・」

「私の名前は千冬だ。」

「織斑千冬・・・」

「なぜせむまで呼ぶ。」

「・・・千冬それはフラグだ。」

ほんとフラグにならないよな？

『『でお金をビーフンつか？』と私に聞くのですか？』

「まあ、愚痴程度に聞いてくれれば。」

今アテネと携帯で話している。これから第一世代、第二世代をつ
くっていくのだから金は今まで以上にかかる。

『ううですね。私ならお金なんて無造作につくり出せる能力や運を最高レベルまで上げる事ができるので4つ皿の願いを使いますか？』

「いや、まだとつておく。でもいい考えが浮かんだ。」

『どんな考えですか?』

「株をしようかなど。」

『でさるのですか?』

「本とか読んでれば何とかなると思う。」

『そういうものですかね?』

「まあ、どうにかする。」

『そうですか最後に1つだけ言わせてください。』

- ?

現在中学生（後書き）

帰つてきました。

次回は白騎士事件でs・・・え?なぜ〇ガンダムじゃない?

いや、あれはグレーだとかつこいいんですけど、なんか気分で出したくなかった!!俺は平成ガンダムはだからな!

(〇〇じゃなくね?)

俺が中学3年になつて1ヶ月たつたころ、東がISを発表し政府がISの性能を認めなかつた。

政府に発表した数日後、残念会をしたり・俺がISを見て強化プランを提示したり。（「見せて」といつたらみさせてくれた。・・・・いいのかそれで。）ISの強化は俺が白騎士事件に介入しないようにするためだ。

そして、1ヶ月半たつたが、まだ白騎士事件は起きていない。

その間に株をやつて金を集め機体改造費にし、できるだけ強化した。

で、今の機体状況だが

未完成だった左腕部は完成した。

GNDドライブもアテネから1個受け取り装備してある。（○ガンダムのオリジナル太陽炉）

武装関係はエアガンを改造しまくつて、アーマードコアでの初期のライフル（CR-WR69R）の再設計した（CR-WR73R2）をつくつた。

また、腰にマウントできるようにして装備している。

またそれぞれのエアガンを改造し

右腕部 スナイパーライフル（CR-WR73RS）

左腕部 マシンガン（CR-WL74M）&レイザーブレイド（CR-WL69LB）

バックユニット レーダー（CR-WB69RA）

バックユニット 小型化チェインガン（CR-WB72CG）

インサイド バルカン（CR-I1B）

エクステンション バルカン（CR-I1B）勝手に命名

を取り付けてある。

初心者の俺が動く物体にあてられるか疑問だつたため、ガンシュー
ーティングゲームで鍛えてはいるが大気の状態や反動制御がゲーム
にはないため不安だったので、打てば当たるの思考で連射、弾数が
多いようにした装備をつくった。

弾丸は外国から輸入できるらしいのだが、日本に持ち込めるだろ
うか？ ということで弾はパチンコ玉・・・打ち落とせるのか？ミ
サイル

あと、試作段階のレイザーブレイド（CR-WL69LB）は後
ろの方に、GNフラッグのようなコードが付いておりその先端に背

中の小型コンデンサーからGN粒子を得ている。（配置場所はレーダーとの接続部分に長さ3cmの円柱がコンデンサーでそこの端にレーダを取り付けた。）

だが原作ビームサーベルと比べるとダメな武器である。刃の部分が20cmもなく、またエネルギーの使用率も悪く威力も原作程ない。

確かに同じ装甲を一度で切れたはずなのに、このレイザーブレイドは何回も切りつけなければ切れない。

また、Oガンダムのシールドも作り背中に斜めに取り付け、シールドの裏側にブースターを取り付けた。使用時には取り外すのはマシンガンのみでブレードは装着し続けることが可能だ。

これで機動力やら総火力やらが強化された。

また、一様トランザム可能機体である。ただし発動時間は短く最大継続で45秒、粒子出力も3倍ではなく1・8倍である。

まあ、HSに足元ぐらこにはおよぶ、つてぐらこいの性能なのだろうけど。

本当に、株やつて儲なかつたらヤバかつた。未完成で出撃する可能性があるのであるのだから。

『ＰＲＲＲＲＲ、ＰＲＲＲＲＲ』

携帯の着信音だ。

「はい。もしもし。」

『アテネです。今各国にハッキングされたミサイルが日本に向かってきますよ。』

「え？」

『テレビをつけてみる。そこには信じられないといつ顔のニュースキャスターが

『全国の町さん落ち着いてください。いま日本にむかって2341発、いえ、もう2873発今発射されましたミサイルが飛んできています。』

とか言っていた。

確かに耳を澄ますと、悲鳴や怒鳴り声が聞こえてくる。

『で、どうするのですか？』

「どうあえり」

『どうあえず？』

「ファーストフェイズを開始する。」

『カツ』よく決めたつもりでしうが、ただ見ているつてだけですよ？ ファーストフェイズって。』

いうなよ

家のカギを閉め、自転車を走らせ『カツ』捨て場に向かつ。

『カツ』捨て場に到着し、自転車をその辺に止めすばやく「CR」を起動させ『サイルの来る方向へ飛翔する。

「「CR」出るー！」

恐怖がない訳ではない、ほんとなら関わらずにいたい。でもそれで取り返しのつかないことが起きたら？、もし俺の家に落ちたら？

もし町に落ちて人がたくさんしたら？誰だつて死んだと聞かされてもいい気分にはなれない。結局のところ自分のためなのだけさ。

俺は、力を持っているのに。

だから行くんだ。

もしのことが起きないようだ。

3と遠いまつのもサイルを撃ち落とした後、また、ISを加速させ縫つように進み、サイルをいくつも切り落とす。

「まつたく、多いぞ束め。」

いくらHISが現代兵器より強いといつても無敵といつわけではない。確かにシールドエネルギーも絶対防御があるため死にはしないが、飽和攻撃を受ければいくらHISでもきつこだらう。

「へっ！」

そんなことを考えていたせいがサイルがうじゅうじゅう向かってくる。

剣で切り裂き、瞬田の前が爆煙にのまれる。

この時、サイルが3発、白騎士の横を通り過ぎ、日本へと向かいつた。

「！…！…しま『ダンッダダンッ』…」「瞬何が起きたのかわからなかつた。

通り越してしまつたサイルが自分の目の前で爆発した。なぜ？

その疑問は、爆煙が晴れてからわかつた。

「灰色の…・・・IS・・・？」

それは全身が灰色の箱のような無骨なデザインだった。

Said out

「あぶねえあぶねえ。」

ハラハラした心を落ち着かせるために言つた軽口だ。

別に見過ぎしてよかつたはずだが、体が危ないと思つてしまつたのか動いてしまつた。

一発目をスナイパー・ライフルで撃つたのは、破壊できるか不安だつたため、ではなく、俺が右利きだつたため反射的に動いてしまつた。その後の一はつめは落ち着きを戻しマシンガンが使えるかどうか調べるため弾膜をはり破壊した。

『大丈夫ですか？』

アテネが携帯電話ではなく、脳に直接響くようなそんな感じだ。

「意識共有空間じゃねえぞ。」

『すいません。少しでもお力になればと着た次第です。』

「じゃ、ミサイルが来る方向を示してくれ。田線をレーダーと全面に見直すのきついんだ。見落とすかもしれない。」

『わかりました。』

フーッと深呼吸をした後

「「CCR」田標を駆逐する。」

それから、アテネのサポートを受け田騎士と一緒にミサイルを叩く。

ミサイルを何とかすべて破壊した。ライフル以外の射撃武器は残弾数が半分を下回っている。

田の前には白騎士。

微動だにしない。

まさか・・・。

白騎士事件（後書き）

白騎士事件はまだ続きます

白と灰

S a i d 千冬

『ひーちゃん、そいつやつつけて!』

ミサイルをすべて落とし終えた後に通信で束がそんなことを言つた。

「協力した奴をか?」

『IISはIISでしか倒せないって世界に見せつけないと意味がないんだよ。』

確かに今回の騒動はIISの性能を世界に見せつけることが目的だ。
『ひーちゃんだけを印象づけるはずだったのに・・・こんなじ
や半減しちゃうよ。』

「・・・・・・・・・・・・

『それにあの機体の光通信を妨害するみたい。』

『JRひーのレーダーも映りが悪い。種は速いしあて摘んだ方がいいといふことか・・・』

『ひーちゃんお願いできる?』

「…………わかった。」

協力したことは感謝する、…………だが束ためだ。

「目標を破壊する。」

そう、破壊するだけ殺しはしない。

S a i d o u t

どのくらい動かすにいだらう。そんなこと考えていた。

『気おつけくださいアキラ。』

「ん？」

『彼女たちはH.Sの性能を示すため攻撃してきます。』

「脳量子波でも使つてんのか？」

『似たようなものです。あなたの心を読んでいたでしょ、ひー』

「千冬も読んでくるがな。」

『あなたが顔に出やすいだけです。』

そんな雑談していたら白騎士が剣を振り上げ突撃してきた。

速い

ミサイルを打ち落としている時にも見てもいたが、その一瞬間に
わかる。

俺は後方へ下がり、左肩を前に出し右肩を引く様に回避行動をと
るがあちらが速すぎて間に合わず、スナイパー・ライフルが切断され
る。

武器にかかつた金を気にする余裕なんてない。

すぐさま左のマシンガンをぶつ放す。

で白騎士は避けた。20弾全弾。

また、いくらHJの方が能力が上だからって1ミリの距離から1発
も当たらないのはおかしいだろ…。

とりあえず近づけさせない様にマシンガンの引き金を絞り、腰に装着してあるライフルを抜き両腕撃ちを始める。ついでにバルカンも撃ち続ける。

白騎士は近づいてきてるのに、俺の弾膜はまったくつていいほ
どかすりもしない。

これはもうHISの性能よりも千冬自身の方を恐れるべきだった。

そして、荷電流砲を打ってきて俺は避けるだが、それが相手の狙
いだった頃にはもう遅い。

体勢を崩されたところに懐に入り込まれ切り裂かれそうだった。
なんとか左腕のブレードを開闢させ

鎧迫り合つ。

「ゲーム兵器だと…？」

バイザードで顔の上は見えないが驚いている様だ。

(それはそだらう。ゲーム兵器なんて軍でもどんな研究機関で
も未だできていない。実用化にいたつてるのは束の間ぐらいだ、
だがしかしこのブレードもまだ改良しなければだけどね。)

そして、蹴られて距離を離され再度の突撃。なんとか避けようと
したが間に合わずマシンガンが切断される、俺は背の盾を左腕部に
装着させ未だ振られる剣を防ぐ、だが後方に飛ばされ、剣はそれに
とどまらず1振りまた1振りと切り続けられ、盾が耐久値を超えて

「うるさい。

(ハセツ)

「のままじや倒されただけだ。

俺は降下して海の方へ急ぐ。

白騎士も追いつくる。

そして肩のチェインガンを外しライフルを撃ち爆散させる。それが煙幕となり身を隠す。ここでコンテンサーにある高濃度GN粒子を解放させる。これで相手のレイダー機能を麻痺させることができ逃げ切れなかつたら本当に死ぬ。

そして俺は海に潜り、逃げた。

S a i d 千冬

『ちーちゃん!』

「すまん。逃げられた。」

あの碧色の光の噴出のせいでレイダーがダメになった。

『ちーちゃん戦闘機が向かって来るよ。そつちを迎撃して。』

「・・・あの機体はいいのか？」

『もう無理、追跡不可能だよ。』

「わかった。」

撃つてきた戦闘機を人を殺さないようじぶつた切った。

(あの機体に比べれば)

まだ撃つてくる戦闘機を次々と切り

(数だけの貴様らなど)

(どうどこいとはない！！！）

そこからは原作道理に戦闘機・巡洋艦・空母を人を殺さないよう
に無力化し、忽然と消えた。

白と灰（後書き）

白騎士事件 終了

GN粒子をすべて解放 高濃度GN粒子を解放 に変えさせても
らいました。

全部解放したら 水中の中でのトランザムが使えないのです。

臆病者と愚か者

とりあえず恒例になりつつある、機体状況から。

前との戦闘で、ライフル、レーダー、バルカン、ブレイド以外はすべて破損した。

シールドは何度も切りつけられ耐久値がヤバい。せいぜい後一回喰らっていたら壊れただろう。

機体そのものは無傷だったが、逃げるために水中でトランザムを使い無理矢理水中を突き進んでしまった。そのため機体のあちらこちらが悲鳴をあげている。

よく生きてたな俺。

とりあえず金もたまりだしたことだし、ガンダムシリーズでも作らうかと思つてゐる。

そういうわけで『CCR』の修理、機体強化はしていない。

「え？ ドイツに来い？」

今両親と電話中だ。なんでも今回の騒ぎ（白騎士事件）で心配し電話をかけてきたのだが、今後も事件が起きる可能性がないとも言えないからこっちで暮せ、といつ事らしい。

まあ、ないとは言えない。

今回、俺が介入したせいでISの評価が変わるかもしれない。といつても結果的に「CR」を倒しているし、その後の戦闘機207機・巡洋艦7隻・空母5隻・監視衛星8基を撃墜・無力化・・・・つて監視衛星つて宇宙になかつたけ？ 大気圏外にも攻撃可能だと・・・？ すげえな、おい。

まあ原作道理の評価である可能性が高いが。

「ところがで来週あたりからドイツに行くわ。」

両親からの電話を聞き、ドイツに行くことを道場の帰りに織斑・篠ノ之兄弟に報告。

なーんか千冬以外泣きたがりしていなんだがどうした?

「あつく。私を捨ててこちやうの?」

「……めちゃくちや誤解を生みそつなセリフだな。」

「だつてだつて一やつヒーハーの性能が評価されたの?」

「いや、俺開発にかかわってないし。」

「えー。東さんと一緒に開発三昧生活送りつけよ。」

結構魅惑的な誘いです。

「なに誘いに乗らうとしている貴様は。」

なぜわかつたし。

「以前言ったが顔に書いてある。」

そんなに顔に出やすいだらうか……?

「アキこい、もつ合はないの?」

「いや、長期休暇には帰つてくるし今の世代、国際電話もできるしな格好で。一ヶ月に一回ぐらいだと思うけど。」

「じゃあ、お土産頼むよ。」

「おひ。。・・・忘れてなかつたらな。」

「そのぐらゐ忘れるなバカ者。」

「じゃ、お別れ会でもしませんか？あ、この場合送別会でしうりやくをあつくんにあげよつぱ。ゼントをあつくんにあげよつぱ。」

といつわまで、来週旅立ち会をすることになった。

か？」

道場から帰つた後、みんなに荷物の整理を手伝つてもうっている。「別にいい。それに散らかってるだ。」と云つたが、なんやら忙しいだろうとか時間もないだらうとか理由をつけられて押し切られた。

で、一夏の作業速度が速い速い。俺だと2時間はかかりそうなダンボール詰めや掃除など40分ぐらいで終わらせていく、で姉の千冬だがこつちは対照的だ。普通服を詰めるのに折りたたんで詰めるだろ？こいつ投げてダンボールの中に入れたら、100㌘ぐらいはみ出してくる服の山を力押しで入れあがつた。

たたむ努力ぐらじしようじゅえ・・・。

篠ちゃんは一夏に習いながら荷物をかたづけて行く。ほんと仲がいいな。一夏がうらやましいよ。

束の方だがこいつちはもうマンガ読んでいたり俺のエロ本を漁つて居たりしていた。そのエロ本は千冬の手により、手で千切られ・刀で切り刻まれ・ゴミ袋の中に入れられ、火曜日千冬がゴミ捨て場に出した。

「なぜこんなものがある！？」

「見損なつたぞ！！アキラ！！！」

「いいか貴様はまだ15だらう！…これは買つてはいけないものなんだぞ！！…聞いているのか！？」

とかを顔を赤くしながら言い、4時間以上の説教（といふか怒鳴り声）を聞く羽目になつた。

その間俺は泣いていた。別に買つていいいじゃねえか！！俺だってそういう年だなんだよ！！って俺転生してくるから実際年齢30超えてるな・・・うん。スケベ親父になつてしまつのだろつか？

まだ、まだ待ちあつよね俺！？

自分で言つておきながらにが間に合はないのか疑問に思つた。
「いつの世界じゃ15歳なんだから。

で、学校に説明して退学したり家の手続きをどうするか両親と相談したり（家は残すことになった。何らかのトラブルでISUを動かしてしまつた時、必要になるだろつと思つてだ。）一通り準備を済ませた。

で、問題がまだ残つている。

「CUR」の事だ。

現在「ミ捨て場に置いてあるが誰かが持っていたり、「ミ」と間違え処分されたら大変だ。だからってダンボールに詰め輸送できるだろつか？

分解すればいいだけの話かもしけないがそうしてる時間がない。

どうしようかと悩んで、不安ではあるが・・・・・束に預けることにした。

一応ブラックボックス化してあるのだが自力で解いてしまいそうで、擬似GNドライブとかつくつて何らかの厄介事（特に俺への）を起す気がしてならない。

かといって千冬に渡すわけにもいかない、これをつくった理由を聞いてくると思ひ。興味心でやつたつて嘘ついで、すぐ嘘だとばれてしまひ。

俺が転生者で、神様から力をもらい、これから起ることを知つていて、その対策として作りだした。っていう本当のことを言つても頭がおかしくなつたつて思い病院に連れて行かれるのが落ちだらう。

あいつなんだかんだで面倒見はいいんだ。学級委員長を何年もやつているのは伊達ではないということか。

それに束なら「あつくとす」ことねー」ぐらごで終わると黙り。

それに俺の心の中で嫌われてしまつのではないか?といつ気持ち
が渦巻いている。

前世では、束や千冬の様な「友達」と心から言える奴はいなかつ
た。

結局のところ、俺は臆病なのだ。

だから、今のこの関係を崩したくない。

たったそれだけの事だ。

で、束をゴミ捨て場に連れてきた。

「あつくん。まさかここに「うどん」でやつこいつ趣味が。そういうえばあつくんのH口本にそういうジャニルのが…。」

「違う。少なくとも現実でそういう事をしようとは考えない。」

「うえー。じゃあなた?」

「こいつを預かってくれてもいいみたいなんだけれど…?」

被せてあつた布を取り、灰色の箱を繋げた様なロボットが姿を現す。

「これあつくんが作ったの?」

「まあ。」

「もしかしてこれに乗つてミサイルとか壊してしたりした?」

「まあした。

「もしかして・・・・・・・ミサイルハウギングしたのが誰かで白騎士って呼ばれているISに乗っていた人が誰だか知つていい？」

「束と千冬」

一人が沈黙してどのくらいたつただろう。1分にも30分にも1時間にも思えた。

「……………」

L

「…………」

「私ねHISの性能を世界に見せるために一ひーちひーさんにもあつくんにも迷惑かけちゃった。」

「こつもの」とじやね?それ。

「でも……でもあつくんを攻撃するよつて言ったのは私だよ。」

私は愚か者だよ。」

「あー、もうどうでもいい。それに俺だつて臆病者だ。俺のホントのことを言つたら今が壊れるんじゃないかつて怯えてるんだから。」

俺は、転生したこと・アテネという神に会つたこと・アテネから力をもらつたこと・これからビのような事が起きるか知つていてることを話した。

「そうなんだ。」

「受け入れられるのか?俺が聞かされたら頭がおかしいって思うぞ?」

「まあ、あつくん昔から他の人とは違つてたしありうるかなあつて。」

「そりゃ。」

「でこのナなんて言つの?」

「「CCR」つてかいて」「ア。

それから、それぞれの機体の血圧をどれだけ心血を注いだとか話していた。

臆病者と愚か者（後書き）

といえずまだ日本を出ません。

お別れ会・送別会・旅立ち会・・・どれが正しいのでしょうか？

個人的に旅立ち会はない・・・とおもつのですが・・・うーん

RYU様がら指摘を受け

一様 一応に変更しました。

ダイシク

束に「CD」とG2ドライブを預け、束に以下の事を約束してもらった。

1つ目、G2ドライブを壊さなこと。

2つ目、G2ドライブは俺の返して欲しい時に返してもいいこと。

3つ目、G2ドライブは作ってもいこが悪用はしないこと。

4つ目、G2ドライブ（複製ver）はだれにも渡さないこと、
するとしても俺に一声入れ許可しなければ渡さないこと。

5つ目、俺の本懲のことはだれにも話さない。

1・2・3はまず預けているだけなのであげただけではない。

4は下手に亡国機業ファンタム・タスクにでも回つたら面倒だ。

5は田をつけられるのが嫌なだけだ。

で、束は承諾してくれた。ホントいい友達である。

「あっくさんのデーターの出発を熟してかんぱーいー。」

「熟してビーナス。」

ともあれ送別会が始めつた。といつても参加者は俺と織斑・篠ノ之兄弟だけである。人数が多くても暑苦しいだけだがな。

「プレゼントたあーいむ。」

「「「わー（棒読み）」「」」

「むう、みんなの反応がひどい。」

「お前が渡すものなんて爆弾・発信器以外に何がある?」

「そんなレッテル貼られてるのー!?」

「「「うん」」一夏・篠

「だつたら見るがいい篠さんの本気をー。」

といつて束が渡すのは

HSの口アでした。

「おー。」

「ん~。なにかなあ。」

「ダメだろこれば。」

「えー。束さんの愛を受けとつてくれないの~。」

「束の愛は俺に面倒事しか運んでこないんだな。ってか故意なんなら殺していいですか?」

「どうや。」 篠

「殺つてしまえ。」 千冬

「みんなひどー。」

「」「なにを当たり前な。」「俺・千冬・篠

束は部屋の片隅で体育座りをしてくる。さあがにいじめすぎたか。

「まつあつがとせん。」

「えへへ。なんだかんだであつくんは嬉しいんだね。」

「マジマジやつていいですか?」つづる。

「じゃ、アキにこい俺と篠からほいれ。」

といつて一夏がくれたのは、

千冬に捨てられた工口本でした。

「ありがち『メチャイ』」

人の体では絶対に出ない音が出た。そして俺の体はビクッビクッ痙攣している。

「どうしてそれをプレゼントにしようと思った一夏?」

「なんかアキにいがものすじく泣いていたから大切ななのかな?つて。」

「なぜ持つている一夏。」

「え?友達にくれつて言つたらくれた。」

「その友達はどうのびこつだ？」

「同じクラスの三田。」

「そうか。篠はどうして渡そつと思つた？」

「一夏が任せらつてこつから・・・」

篠は顔を赤くしながら言つた。

「まあいい。」

といつて、刀とエロ本を持ってビニカへ行つてしまつた。

殺しはしないよな？さすがに。

織斑・篠ノ之兄弟が見送りに来てくれた。

なんでも千冬がプレゼントを渡しそびれたらしく（ちなみに川田つてやつはいい加減だった性格が人が變ったように真人間になつたという。）それを渡しに来たらしい。

で、いつまでたつても渡す気配がない。

「また来てくれよ。アキにい。」一夏

「アキさんまだです。」篠

「またねえ。あつくん。」束

「・・・・・」千冬

と別れの言葉を言わない千冬さん。

なんやら束がちびつこ一人を連れて先に帰っているが・・・。

「おいアキラ。」

「なに?」

と顔を千冬に向けたとき

『ひめゆり

と音が

え？

田の前には十丈の顔、距離はゼロ距離。

え？

俺の思考が回復する間もなく

『バチツ！』

ビンタをくらつた。

「次に会うときはお前の心をもひつー」と言い残し走り去る。

いづれやの束より速いと思つ。

それから飛行機に乗りドイツに向かつたが、乗つてゐる間そのことが頭から離れなかつた。

生身 VS IS

現在、俺ドイツでISにつくってる。

父が「職場体験してみないか?」といわれ俺は「働く気なんてさらさらない!」と意気揚々にいつたら

・・・・・・・・・母が後ろからスタンガンで氣絶され強制連行。

内の母上も暴力的だな。悲しいよ。

で、研究所に連れてこられISの開発を手伝わされたわけだ。

ちょっと待て。

「I-Sって国家機密だよな？いいのかよ。」って両親に聞いたら

「え？しゃべらなきゃこいんじゃね？」って適当だなおい。

で、ドイツの第一世代を作っているわけだ。

黒色の装甲に、爪が長い凶悪な腕、太くスラスターを内蔵した長い脚。

原作であった第三世代の大型レールカノンはなく背後の翼（P-I-C発生機？だったかな）もない

とりあえず 飛べるよ！こうじょうとこうじ事で開発を進めている段階だった。

で、俺がへまをしてしまった。つい「ここをこうすればいいんじやね？」って頭に思つた設計を言つてしまい、それが評価され現在 I-S第？研究所に務めることになってしまった。

ちなみに第？研究所はI-S本体の開発

第？研究所はI-Sの能力開発（ちなみに両親が働いているのはこ

第?研究所は武装開発

現在俺は昼夜や無断欠勤をしながら働いている。それはだめだろうと思う人がいるかもしれないが、心配ないみんなそうしてるんだ。

こここの研究員は主任以外ほとんど顔を見ない。というのも大体の武装は決まっているためやることがないのだ。で、みんなはISが作られる前の研究をしていくというわけだ。

俺の現在やつていてることと言えば、「GN-XXXXラジエル」と「GNR-000セイファー」を仕上げている。また、「アストレア」「サダルスード」「アブルホール」「フルトーネ」はすでにFに改良してある。原作より改造されているが。

頭をヘルメットにすると息苦しいし締め付けられている気がするので、顔を見せないバイザーは取り外し可能・頭の上のコード類・装甲は撤去。

そのためアストレアを例にすると横の装甲とブームラン形の角、角の碧の額のが付いているだけだ。

他の機体もそのようにしてある。

また、「アブルホール」は機首の下の方にビームライフルを内蔵してある。そして、腕の方は胴体と翼の間のスラスターの所に腕を収納している。

束に貰つたコアを機体に入れることを考えたが、4体もの機体と並列稼働ができないため機体を量子化して倉庫代わりにしてある。（コアも作っているが時間がかかっている。）

そして、サポートがあるとうれしいので独立支援AI『エイダ』・作業用メカ『ハロ』を作成。

『ハロ』には原作で出てきたように整備用力カレルに乗り整備を『エイダ』には株の管理や世界の情勢を調べてもらつてある。

『ほとんど完成してきましたね。』

「まあ、時間と資金があればできるわ。」

『進行スピードと資金量が異常ですがね。』

「ほんとお前が株の管理やらしてくれて助かった。」

『だつて口座見たら桁が10近くあつたんだぜ？経済独占していないか？』

『大丈夫だ、問題ない。』

「そのネタよく使つな。」

『織斑千冬のおかげで日本の株が急上昇したのでのつてみたらす
ごとにになりました。』

「その辺は感謝感謝。」

『で、今日はどうしますか？ シミュレーター・昼寝・アニメ鑑
賞・などは思いますが研究所へ行きますか？』

「研究所にいく。」

『・・・・・・・・・・』

そんなに驚きですか。

自転車で第？研究所まできて主任のところまで行く。

「おひや〜。」

「あつ、アキラくん今日は来ててくれたんだ。」

この人が俺の主任フュイラ・フォーリンさんです。

そりそりとした絹の様な金色の長髪にルビーの様な赤い瞳、すらりとした手足、胸も結構・・・ゲフングフン。

美人さんでやさしい、生まれてきてよかつたってさえ思える。ほんとどつかの誰かとは大違い。

「前に貰った武装の設計データだけ、ハイレイザーライフル「W H O 4 H L - K R S W」だけ？ 重くて取り回しがつらいんだって、改良してくれって要望が来たのまた改良してね。今から演習所でダブルマシンガンの実験するらしいんだけど見に行く？」

「行く。」

『せいぜい暇だからでしょ!』

「あはは。エイダちゃんもデータ取りお願いできますか？」

『解。』

ちなみにこいつの武装の形状はアーマードコアで出来てきたカラサワと

「ブキヤのダブルマシンガンだ。」

で、演習所についてフュイラさんは書類を抱えてどこかへ行つてしまい。俺の目の前にISが銃を構えている・・・。俺もIS用の武装、カラサワを右腕にダブルマシンガン（連結状態）を左腕に構えている。

演習場にフュイラさんを置いて入つて行つたとき、隊員たちが俺を見るなり「帰れ！」やら「あなたの作る武器は使いずらい！」やら「とつとど死ね童貞野郎！」やら「……」（自主規制）ものすげえブーイング。

・・・・・俺何かしたつけ？

『あなたが根暗な性格しているのとチビなのと貧弱なのが最大の原因でしょう。そして私も死ねばいいと思います。』

味方からの攻撃！ 俺の心に17のダメージ！！ え？ 結構小さい？ だつて気にしてねえモン。

「これが木村夫妻の『子息かと思つと絶望します。木村夫妻もこのような人になつたのでしょうか？』

隊員の言つた一言が俺の頭を黒いマグマのように沸騰させる。

「おい。今家族馬鹿にした奴出てこい。殺してやるよ。」 どすの
きいた声と殺気を100%追加して叫んだ。

「別に俺を侮辱しようが殴りつけようがどうでもいいが、俺の家族をバカにするな。」

「……………いいでしょ。私に勝てたら先ほどの言葉撤回します。」

「 」

「うん。生身にHJは異法だと思うんだ。HJでやるさせおじおじ」と、あつちやじゅくわや動きまわってゐし、周りの隊員たちが先ほどと同じよじHJブーリング飛ばしていく。

自分の短絡さを嫌だと思う反面これでいいとも思う。

俺にだつて大切な人がいるんだから。

「では始めましょうか。」

といつてEISが突っ込んでくる。

俺はダブルマシンガンを発砲するがシールドエネルギーと装甲によって弾かれ相手はプラズマ手刀を呼び出し切りかかってくる。（通常の出力でやつたら痛いでは済まないので落としている。）

俺は身をよじって躱しつづく攻撃も躱しつづく至近距離からカラサワをぶつ放す。

「くつ。」

相手はエネルギー弾の被弾によって後ろに飛ばされ、その隙に両手撃ちで相手のシールドエネルギーを削るだけ削る。

「こざかしい！」

俺を左側を回り込むように動きそれに合わせ俺はダブルマシンガンを撃ちつづけている。

そして、弾切れを狙つてか切りかかつてくる。

プラズマ手刀を目先すれすれで躱しダブルマシンガンで

殴った。

どつちこじろ弾は連結した後ろの方に半分残つてゐし前の方はもう撃ひぬくした。

前方のマシンガンが壊れようがどうでもいいという思考で、相手の手刀を躊躇つつ殴る。

「！」

といって切りかかってくるが千冬の刀に比べればどうとこう事はない。また躊躇して殴る。そしてついに耐久が限界にきて前のマシンガンが壊れるが、そんなお構いなしにマシンガンを乱射。

さすがにシールドエネルギーがヤバいのか後ろに引き、レールカノンを呼び出す。

(・・・おい。さすがにそれはないだろ。)

右腕のカラサワで破壊しようとするがこの距離では避けられてしまう。

そして、レールカノンの発砲で俺の前方の地面がえぐられ衝撃で吹き飛んでしまい立ち上がるが、カラサワを踏みつけられ俺にも手が伸びてきた。

カラサワから手を離し相手の顔を一発殴る。

そこで俺が押さえつけられ試合終了。

(殺すまではいがなかつたが殴れたんだからいつか。)

その試合の後で、フェイラさんからO・H A・N A・S H Iが来てしまった。うん、千冬に匹敵していたと思う。

「今後こういう事がないようにな……いい!?」

「……はい。」

フェイラさんから解放され、研究所の出口の所にさつきの試合でISに乗っていた人がいた。

「先ほどの事を詫びに来ました。」

「?」

「私は木村夫妻に絶望の中を救われて尊敬していました。そのご子息が不抜けていると言われ憤つておりました。の人たちのご子息ならもつと立派に強いだろうと思いました。しかし不抜けているあなたを見ての人たちを侮辱してしまいました。」

「…………」

「本当に申し訳ありません。」

「別にいいですが今度からはやめてください。」

「はい。」

早々に会話を切り上げ、それから俺は家に帰るため自転車のところに行つた。

（そういうえば名前なんだっけ？）

試合で戦った相手がクラリッサ・ハルフォーフだったのは後日知ることになる。

生身 VS HIS（後書き）

うん。生身でHISと戦つとか、やってしまった。

だが後悔はしていない！！

ちまみにフエイラさんは

リリカルなのはのフエイントさんのイメージで。

アブルホールの腕の指摘を受けたので追加しました。

テロ事件発生（前書き）

今回、ガンダム00の 8話 無差別報復をベースにしています。

テロ事件発生

最近、女尊男卑の風潮が強まってきた。

それに対しても男尊女卑の考え方の奴らがまだいるらしい。

まあ、俺にはどうでもいいことだが。

で、俺は今軍の訓練施設でクラリッサ・ハーフの監視下の元、射撃訓練をしている。

なぜ、訓練なんてしているかといふとクラリッサと両親がEISとあそこまで戦えるのなら訓練してもっと強くなれとか言ったのだ。

無論反論したが無駄でした。

母上による背後からのスタンガン攻撃で黙らせられ連行つてな感じ。もうやだこの母上。

射撃訓練以外にも接近戦闘訓練、30kmものフルマラソン・筋力トレーニングなどの基礎体力の向上など、もう一卒の兵士並みにやつた。

「やべ、どうなしどうの倒せやつなんだが。」

「あのときは油断していたのと手加減していたからあれだけの戦闘をできたのです。」

「まあ、空飛んで連續攻撃されてれば死んでたな俺。」

『そのまま死ねばよかつたのに。』

「エイダ、一応作成者俺なんだが？」
氣遣いはくれんのか？」

二〇

「・・・はい。」

「もうそれ切り上げますか。」

というわけで今日の訓練終了。

「おーい。お弁当持ってきたよーアキラくん。」

マイヒンジル フハイラさん…！

「アキラくん、変に笑つていて顔が怖いよ？」

「いえ、フハイラさんの作った弁当が楽しみで楽しみで。」

「あ……うん。（お弁当さんにはしゃべなくて、まだまだ子供なんだね。）」

フハイラさん、微笑ましい田線でくすくす笑つてゐるナビ、ヒーリング

たの？

『一生かなわない恋ですね。』

Hイダがなんか言つた気がしたけど気がない。このポテトパンケーキつまー。

弁当食べた後は、フハイラさんと一緒に研究室に行き書類の整理をしていた。
といつても少なかつたため速くかたづけてフハイラさんと買出しに出ていった。

これって、デート？

という淡い期待は早々に碎かれた。

フエイラさんの買う量が半端じゃなく、出かける前に行った「すぐ買うけど荷物持ちお願いできる?」って言つたけどこんなに買うとは思わなかつた。

両腕は腕に荷物を10袋ぐらい通してもう持てない。せりにせりにこれでもかとこのほどにパンパンに物を詰められてくる。せりにいつならもう3時間以上歩き続けているのだ。

「アキラくん、大丈夫?」

「もうやめようやばいかも。」

「ほんと強がれない。・・・あれ? ものすごく鍛えてるはずなんだけどな?」

「じゃ、ちよつと休憩しようか。」

といつて近くのベンチに座りうとしたその時、何かが光つた。

光つたのは俺の50㍍くらい離れたバスだ。

爆発だと分かつたが、爆風に煽られながらフエイラさんの前に立ち必死にかばいながら倒れる。

水色だつたバスは赤々と炎をあげている。その周辺には大小の瓦礫と共に数人が倒れていた。

「……アツ、アキラくん……だつだいじょうぶ……？」

「……だ、大丈夫……」

先ほどとは違う言葉を言つていた俺も、同じことを言つたフェイラさんも声が震えていた。

この時、各国の都市でフケ所同時にテロが起つた。

翌日の朝、10時に千冬に電話をかけていた。あつちでは18時ぐらいだけ。

「そつちは大丈夫か？」

『ああ。東京でテロがあつたが一夏も私も無事だ。』

「篠ちゃんは保護プログラムで大丈夫か？』

『日本の警備体制もそこまで緩くないと想いたいな。』

「そう。でも今後もあるかもしれんから気をつけてな。』

『アキラが気遣うなんてまたテロが起つるかもしれないな。』

「・・・〔冗談じやねえなさい。」

ほんと〔冗談じやねえよ。バスがもう少し近ければ巻き込まれていたんだから。

『悪い、ではまたな。（「こいつとき以外にも電話をかけてくればいいのだが…）』

「ああ、じゃ、また。」

最後の方小声で何か聞こえた気がするが無視。

「エイダ。何かわかつたか？」

『確定情報が一つ。まず今回のテロの首謀者は自然回顧主義組織「ラ・イデンダ」と判明。また拠点が幾らか判明。』

「すげえなおい。資金の流れや世界情勢が分かっているからって・・・」

『で、どうするのですか？』

「クラリッサさんに報告しておくだけにしどう。プロが対応した方がいいし下手に刺激してテロを激化にする必要もないだろ。』

『せつかくつくった機体が無駄になりますね。』

「まあ、テスト機みたいなものだからなIRSの第2世代もガンダ

ムの第2世代も、実戦で危ない橋渡る必要もない・・・ござつて時
まではだけどな・・・

『そのござつて時のために機体を整備しあります。』

「追加装備の制圧用スタンガンソードとスタングレネード弾、拘
束用ロープはどうなつている?」

『新技術を使つてゐるわけでもないので、もう完成してあります。』

』

「すまないな。』

『それが私の存在理由です。』

で、クラリッサさんに報告したのだが俺の得た情報など上層部に
あてにされず、いまだテロが続いている。

というわけで機体テスト込みの武力介入に移行する。

武装拠点（テロに使われている爆薬、銃器）は3ヶ所、マーシャ
ル諸島・南米の山間部・大西洋を航行している武装艦。

海に落ちた時のために酸素マスクを一応インストールしておぐ。
(原作道理にならなきやいいんだがな。)

人気のいないとこりでヒヒもどき

ガンダムを展開する。

ステレス機に足をはやした様な、翼のところにハンドミサイル・
脚部にはテイルコニットを装備した暗闇の様な黒にとじかじろて
橙色を塗装された機体。

「アブルホール」田標へ飛翔する。」

マー・シャル諸島の武装拠点に到着。夜であることを利用して襲撃
する。

翼についているハンドミサイルとテイルコニットのミサイルで武
装倉庫を破壊する。

そして、すぐさまスタングレー・ネード弾と睡眠弾を投下して武装
勢力を無力化する。

で、拘束用ロープでこれでもかとこう程巻き、ついでに武装も解

除（というか破壊）してからその場から去る。

時間は5分にも満たない。奇襲という事もあって相手からの抵抗がほとんどなかつたからこんなに早かつたのだろうが。

「目標達成、次の目標に向かう。」

南米の山間部上空に到着して、「アブルホール」から全身から夕陽の緋を被つたような「アストレア」に変え両手にGNバズーカを装備。弾の種類は煙幕弾。

ついでにクラビカルアンテナを外してGNランチャーを装備。

その状態で石の建造物に砲撃。その後GNランチャー・右手のGNバズーカを量子化して戻し、スタンガンソード（一本の円柱の付いた剣）を右腕に・GNシールドを左腕に装備する。

今回建造物の中に爆薬・武装があるため内部を制圧しなければならない。

さつきの攻撃で破損した壁から侵入する。

煙幕弾で姿を隠しながら右腕のスタンガンで相手を氣絶させていく。あてた相手がものすごい痙攣を起こしているが・・・面白くて仕方がないんですねど（笑）。

マシンガン・バズーカなんかで相手は抵抗してくるが、ガンダム

の装甲には傷一つ付かないむけにシールドも張つてゐるため衝撃もない。

逃げよつとしている奴がいるがNGNバズーカの煙幕弾を当て相手を倒しセレニからの煙幕から近くにいる奴らも氣絶せていへ。

どうやら今逃げよつとしている奴らで最後なので、拘束し・武装を破壊して最後の目標に向かう。

また「アブルホール」で移動してから「アストレア」に変えプロトGNソード・GNシールドを装備し戦闘艦に突進する。

弾膜を張つてきているが小刻みに左右上下に動いてるので当たらない。

そのまま、側面を切り上に上昇して急降下。戦艦の中央に突撃するように着地して砲台を切り続ける。

砲台を破壊し終えて立ち止まつたその時、『下から熱源接近』

下から延びてくるのは一つの鉄の蟹の様なハサミ。

そのハサミに両足を拘束され海に引きずり落とされる。

海の中で見たのは武装された海中探索機であった。

ハサミは足を切断しようとしているがガンダムには効かない。そのつやつたいハサミをプロトGNソードで切り裂く。相手は後ろに下がって魚雷を撃つてくる。

(・・・そんなもの・・・)

魚雷がGNシールドに当たり大量の泡が発生される。

その中から海の藍とは対比の緋の機体が現れる。

そして、無慈悲にプロトGNソードを掲げ相手に振りかざす。

一応、パイロットは爆発する前に引きずり出し拘束する。

死人とか出たら後味悪いからな。

その一日後くらいに、各国の軍が動き始め鎮圧された武装拠点で武装員を拘束したらしい。

武装員は「あれはお前らのHSではないのか！？」とか「あれは・・・悪魔だ・・・」とか言っていたらしいしく、世間がそれを『正

体不明 I S 現る』やら『正義の味方か？悪魔か？』とか騒がれていたが3ヶ月もすればその噂は氷が解けるように消えていった。

テロ事件発生（後書き）

さすがに無茶があつたかな・・・？

弟子

テロリストを無力化したTISは正体不明・確認不能なため「亡靈」と名づけられ各国の諜報機関が捜査に乗り出しが発見できなかつた。（まあ、早々発見できるわけねえだろ？　こつちは細心の注意払っているんだぜ？）

あのテロ事件から4ヶ月、女尊男卑はさらに加速し一部の女性は男性を奴隸とさえ思つやつが出てきた。まあ、俺はそんな奴イヤホンで音楽聴きながら無視しているが。

今後テロ事件や白騎士事件の様な戦闘がある様な気がするので、（もう原作に介入するのは確実な気がする。）修理作業機や予備の部品を作つていこうと思うのだが、現在GNドライブは5つしかない。もし破壊された場合後がないため、製造できる木星に行ける技術との世界でGNドライブが製造可能かを調べるために10個作れるぐらいの素材と大量の「ハロ」と作業用カレルを乗せて木星に飛ばせる船・・・。

確か、機動戦艦「ナデシコ」とか単機で大気圏離脱できたつけ。

第二世代よりも前に「ナデシコ」を建造することとした。

まず作業場だが昼でも薄暗い森の中の「ミミ捨て場です。どうやら管理している人がすばらな性格していて管理を怠つてゐるのか、不法投棄がいっぱいあります。

そこから部品や「コード」を使っていたりしていた。

え？ 金持つてんだから金払えって？

だつて、時々使えそうな部品とかコードとか転がつてんだ。リサイクルして何が悪い！！

そして、できたのが機動戦艦「ナデシコ」（光学迷彩装備）とハロ×25、作業用カレル×20

この「ナデシコ」だが原作よりも小さい、全長99m・全高35.6m・全幅4.9mだ。人が入るわけじゃないし原作道理の大きさにする気はなかつた。

相転移エンジンも核パルスエンジンも小型であり、グラビティーブラストなんて装備していない。戦闘に行くわけではないし。

（原作では全長298m・全高106.8m・全幅148m。だいたい3分の1だ。）

見つかっているといわれるのが嫌なのでHSのコアに量子化して収納して見つからないようにしている。（コアの自己進化のおかげなのか知らないが、だんだんと容量大きくなつていなか？）

そして、見つかるのが嫌なので光学迷彩張りながら木星に行つてもらつた。

できたかどうかはエイダを通して教えてもらつ事にする。

そして、N・O・N (NONE OF THE ENDERS) であった「メタトロン」もついでにもつて来させよつかといふ事で「ナテシロ」の輸送箱 (GNドライブを地球に向けて送り出す箱) を多く積みこませた。

今日はフュイラさんに訓練所に呼び出された。フュイラさんの呼び出しなら拒否せず行くぜ！ 気分的に光の速度でーー！

ん？ フュイラさんが呼び出すとすれば研究所の方じゃね？ と気づいてしまったがもう入り口なので扉を開け入る。

ん？ クラリッサと同じく眼帯をつけた少女がいる。

銀の腰にまで伸ばした髪、俺とは少し色味が違う赤い眼をしているが、俺の眼は眠たく疲れた様な感じがするのに対し彼女の眼は冷たく鋭い感じを受けてしまう。

(まさか・・・)

と思つてみると、クラリッサが俺を倒して頭を踏みつけてくる。

「ようやく来ましたかウスノロ。」

「おせよ。やして呪じた。」

「……」うなれば男は喜ぶと書いてあったのは嘘なのでしょうか？」

一部の奴らは「褒美だと黙つた。

「で？ なんで呼んだのフロイドさん。」

「ちよつと頼み」とあります。

「なぜクラリッサが答えるし。」

「私がアキラの番号を知らないので、フロイドさんに頼みました。」

「

だひつと思つたよ。

「実は鍛えてほしこのです、このカラ・ボーナ・ハイシヒキ。」

「やだ。」

『面倒だからですね。』

「当たり前だらうが。」

「そこを何とか。」

「クラリッサが教えればいいでしょ。」

なぜ原作キャラと関係をつべりにしない。

「転勤になりました。」

「はあ？ どいに？」

「黒ウサギ部隊です。」

「・・・なめてんのかその部隊？」

原作でもあつたけど。

「アキラくん、黒ウサギ通称であつて正式名は『シュヴァルツェ
ア・ハーゼ』だよ。」

「貴様が生身でエレと戦闘したところのは、 とてもそれは見え
んな。」

「そりだろ？ 僕みたいなやつの指導とかあんたもうけた『手は
抜かれましたが本当ですよ』・・・。」

エイダアアアアアアアア

「まあ無駄だとは思つが受けとみよ。」

俺は面倒事に巻き込まれつつあるようだ。

で、基礎訓練と射撃訓練は一緒にやり・HSの動かし方・基本知識のアドバイスをしていく。

最初は俺の教え方が悪かったがだんだんと分かりやすく教えられるようになったと思つ。

これも「経験値急増蓄積」のおかげなんだろうと語も3回で話せるようになったし。

HSの動かし方では模擬戦をすることで身につけようとする。俺がハリセンを持ちラウラは出力を落としたプラズマブレードで試合をする。

最初のころは蠅が止まるような動きだったのを素振りとイメージ訓練を優先した。

だんだんと速く動けるようになってきたので俺にあてるので攻

撃してくるが、何度も千冬の剣を避けているので当たらない。

そして、普段の訓練とほぼ同じ速度になってきたときはブレイズマブレードを避けた後、ハリセンで横腹や足首などを叩いてやりより実践的な近接戦闘をしていた。

まあ、フカ円ぐらじしていれば代表候補制の下ぐらじにはなってきただろうか？

そんなラウラが生身の俺と模擬戦をするヒビツなるかといつと

ハリセンを横に難ぎ払つがラウラはヨウトガらせ簡単に避けてしまう。

「チツ」

そして、前進しながらブレードを振りおろし切り上げ、また斜めに切つてくるが俺は数ミリ先で避け続ける。

反撃しようとハリセンを振り下ろすが踊る様に回転し避け、そのまま横に切つてくる。

倒れこむ様に前転して避けるが、そこはラウラの足元。

容赦なく蹴り上げられ飛ばされてしまつ、そして地面にたたきつけられラウラが起きようとしていた俺の首元にブレードの刃先をち

よつと手前に置く。

そこで模擬戦終了

もうアキラは生身の人間に後れをとることなどないだろう。前のIS適正結果Bだったし。

「もう俺が教えることないんじゃね？」

「まあ、そうかもしけんが私はアキラに教えられたり模擬戦するのは嬉しいぞ。」

「最近は模擬戦でなぶられているようにしか見えない。」

「そんなことを言つなら最初ハリセンで叩きまくられた私は屈辱でしかなかつたのだが。」

「いくらなんでも酷過ぎるこつ事で素振りに変更しただろうが。

「……なんでアキラは私を侮蔑しないのだ？」

「……はい？」

「私は戦うためだけに生み出されたが『出来損ない』の烙印を押された。大抵の奴は嘲笑するか侮蔑するかのどちらかだ。なぜアキラはそういう事をしない？」

あーそういえばそういう事クラリッサから聞いてたな。

「一言でいえば面倒。」

「は？」

「だつてこれから教える相手と関係気まずくなるの嫌だし、強くなつたらなつたで報復されるのが嫌だからじゃね？」

「なぜ疑問形？　とこつよりそれだけか？」

「まあ、それ以外にも理由としては、戦う事だけがラウラの存在理由じゃねえだろ？」

「いや、私は戦うために生み出された存在だぞ。」

「最初は戦うための存在だとしても入つていつのまに自分を変革させていくことができるんだぜ？」
まあ、変わらぬ本人の意思だがな。」

「…………私も戦う以外の存在になれるのか？」

確かに原作では一夏におとされるんだつたけ。

「なれるだ。」

そんな話をしているうちにラウラの携帯が鳴る。

「上層部からの呼び出しだ。こつてくれる。」

「 いってらー。」

ラウラは上の所に、俺は家に帰宅する。

それからラウラがクラリッサと同じシユヴァルツェア・ツヴィアイクに移動になったのを後日知った。

弟子（後書き）

機動船艦 機動戦艦に変更

また、ナデシコの建造とかどうやって作ったなど指摘を受けたので

大幅に編集しました。「迷惑お申し上げます。

小説読み返してみたら「シュヴァツェア・ツヴァイク」じゃなく

「シュヴァルツェア・ハーフ」でした

現在俺はドイツでおこなわれているモンゾグロッソ？モンテグロ
つソ？

まあ、どっちでもいいか。

で、第一回モンゾグロッソ？に来ている。

昨日フェイラさんが「友達が急用で観戦券余っちゃたんだけど見
に行く？」と言われたので見に来た。

・・・最初に呼ばれなかつたのが悲しいです。

「あの狙撃銃かっこいいね。うちでも作つてみよつか？」

「うーん。どつせ作るなひつきの連動式グレネードの方がいい
んじやね？火力すげえし。」

『私は相手側のレーザーライフルがいいと思います。エネルギー
効率がよさそうです。』

フ・イ・ラさんとエイダと雑談（もしくは分析）をしながら試合を見していく。

とブリコンヒルデ・凶暴幼馴染・人の皮をかぶつた鬼・こと織斑千冬が「暮桜」を纏い現れた途端。

「…………キヤアアアア…………おねえ様あああ

「あつ。お姉さまが私を見ててくれたわ！」

「なに言つてるの私よー！」

「いいえ、わたくしですーーー！」

とすげえ歓声と熱狂。

「すげえなおい。」

『あなたとは対比的な、といつよりもひ足元にも届かない存在になりましたね。』

「今さらな気がするがな。」

「え！？ アキラくん織斑さんと面識があるのーー？」

「あれ？ 言つてなかつたけ？ 一応幼馴染だけど？」

「友達から「サイン貰つてきて」つて頼まれてるの！ 私も欲しいし、何とかしてもらえない！」？」

頼めば別にもらえる気がするが・・・

って サインとか写真とか売つたら儲かりそうだな・・・俺の年収超えたりする？

・・・・・するな確實に、だつて田の色がすげえ色してるもん。（どうこう色かは想像してください）観客席見渡すだけで9割以上いるし・・・

・・・・つてそんなことより思い出した。大会決勝に一夏が誘拐されるんだった。

どうやら数年たつているうちに記憶が薄れつつあるようだ。

今はまだ決勝戦ではないが、警戒しといひ。といつよつ一夏を警護しといたほうがいいか？

「ねえ！ アキラくん！ 聞いてる！？」

なんか怖いんですけど。

「え？ ああ、まあ、あっちに暇があるんだつたら・・・

「ありがとう！』

で、試合が終り、携帯で連絡を取り今控室。

「えーと。俺の主任のフェイラ・フォーリンさん。で、知ってる
とは思ひうなび凶暴幼馴染、織斑千冬。』

「私の紹介がおかしいだる。』

「正当な評価だ。』

「あつあの！ フェイラ・フォーリンです！ 織斑さんの噂はか
ねがにえ・・・つ！』

『うやうやしくをかんだらしい。・・・萌ええ。

『ドガツ！』 僕の足が千冬の足に踏まれるやつになるのを避け、千冬の足が地面に当たる音。

・・・・いくらなんでも音大きくな？ 床が5cmぐらい沈んでるし。

「はあ・・・何か用か？」

「すっすいません！..」

「いえ、フォーリンさんではなく、この馬鹿に書つてこります。」

「まあ、おじめな話と フロイドさんの友達のサインのお願いとあるけど？」

「あ、色紙もつてきました！！ 友達と私のとお願いします！..」

「はあ、・・・こんなのでいいですか？」

「ありがとうございます！.. 家宝にします！..」

・・・それほどのものか？ 僕が貰つたら一瞬で「///箱行きなのがだが。

「今なに考えたアキラ？」

「・・・すげえ人気だなと。」

嘘じやねえから」まかせたはず！..

「まあいい。で、まじめな話とこいつのは？」

「不確定情報だけど一夏が誘拐される。」

「…………なぜだ？」

「千冬の事、妬んでいたり気に入らない奴がいるらしくてな。あと束にも気に入られてるだろ？ で、護衛くらいうけとかといふ話。

「

「そうか・・・そうだな。」

どうやら護衛を付けてくれるようだ。「国機業に攫われる。とはさすがに言えない。

あつら、ハイダでもどこにいるかわからないと言ひ。そんな存在を俺が知っていたらおかしく思われる。

「信頼のおける人間を付けよう。」

「で、一夏は？」

「今は会場にいるだろ？ ちよつといいか？」と言ひて携帯を取

り出す。

「すいませんが一夏の護衛をお願いできますか？ 理由？ なにやら妬んでいる人がいるらしい、心配で・・・ありがとうございます。」

「どうですか？」

「護衛を3人ほど付けてくれるらしいです。ありがとうございます。フォーリンさん。」

「え！？ あついえ、あの」

「フュイラさん、やつをからきよびつすぎじやね？ まあ、かわいいけど・・・」

「情報提供者は俺なのだが・・・」

「フンッ。」

「まあ、いいけど・・・」

「じゃ、俺は一夏と話してくれる。」

「ああ・・・ありがとうアキラ。」

その言葉は、俺とフュイラさんが扉から出た後だったので聞こえ

なかつた。

「あつー。おつす。アキにい。」

黒ずくめの男3人に囲まれた一夏が俺達を見つけ声をかける。

どっちかっていふと護衛が怪しい気がするのだが？

「おひそしぶり。一夏。」

「はじめまして。一夏くん。」

「アキにい。この人は？」

「ああ。俺の主任のフューラ・フォーリンさん。」

「ようじへね。一夏くん。」

「よろしくお願いします。フォーリンさん。」

その後、俺のここ最近のドイツでの生活や、一夏の転校生の話など（リンがとか言っていたので原作の鈴だらつ）を話していた。

決勝当日、一夏が誘拐された。

「どうやら護衛を倒し、護衛になりすまして一夏を攫つたらしい。」

「はあ・・・・」

『どうしますか?』

一応、一夏の居所を調べ、ドイツ軍に報告はした。人気のない廃棄工場らしく地図では周りは森に囲まれている。

「うーん・・・・」

千冬だけでも問題ない氣はするが・・・

「とりあえず障害があつたら排除しといたほうがいいよな? 原作とは違つ可能性があるわけだし。それに正確な描写がなかつたらなあ・・・・」

しばし考えた後。

「前みたいに後追つて、危険になつたり出すところで。」

『ストーカーですね。』

「つるせえ。俺は千冬ファンじゃねえ。

「アブルホール」を人気のないところで胸に下げた懐中時計から呼び出す。

「アブルホール」目標へ飛翔する！

脚部から碧の光を撒き散らし一夏の所に飛び。

『イタリア製第一世代IS「Primus」・デュノア社製第二世代IS「ラファールリヴィアイヴ」が目標地点付近から接近してきます。おそらく亡国機業と思われます。』

「・・・・2対1じゃさすがにきついか？ 急ぐぞ。」

『了解。・・・「暮桜」と接触、戦闘行動に移りました。』

俺の援護なんて必要ないとは思つが・・・無事でいろよ・ いろいとめんどくさそうだし。

センサーに「IS2機確認・警告」IS射撃体勢に移行。」と表示された時は驚いた。ISは企業・各国家群が所有しているはずだ。誘拐犯が企業・国家ならば分かるがその可能性は低いだろう。

別々なのだ。

「Prim」はイタリアの第一世代・「ラファールリヴィアイヴ」はデュノア社の第二世代。

企業・国家ならば同系統の機体を使うだろう。現在ISはまだそんなに数は多くないはずだ。

「貴様ら、亡国機業か？」

それならば納得がいく、正体不明で最近の目標は「IS」。ならば別系統のISを使うのもわかる。

バイザーで顔を隠されている声にも応じないから、正体はわからぬいが。

(ビビリテしよ一夏を連れて帰る。それだけだ。)

と、「ラファールリヴィアイヴ」の手に23mmの実弾系スナイパー・ライフル「シャインラン」が握られ撃つてくる。

それを突き進んでいる体制で機体を回転させ速度を落とすことな

く避ける。それと同時に瞬時^{イケニッショ}スピードで一気に接近し雪平を相手の左側から切り込み、装甲を破壊し吹き飛ばす。

また、右側にいた「Prim^a」から脇に抱えられたアサルトマシンガンから攻撃を右側に受けるが、ほんの3発程度、かすり傷なので続けざまに「Prim^a」の方にも切りつける。

復帰したのか「ラファールリヴァイヴ」からミサイルが撃たれ避けようとするが、足を掴まれてしまつた。

だが、ミサイルは「暮桜」には到達せず横からの粒子ビームによつて破壊された。

足に掴まれていた手を雪平で破壊し拘束を逃れる。

ハイパーセンサーは映りが悪く、といつても視界が少しづれ程度で問題はないが、ISの接近警告なんて出でていなければ。

その時、数年前の白騎士事件を思い出した。あのときもレーダーに映らず、警告もなかつた。

そして、接近してくるステレス戦闘機に脚を付けた様な黒い機体から碧色の光の粒子が出でていた。

(あれば、味方なのか?)

Side out

(めいめい。)

その時、俺はどっちに呆れていだらうか？ ISを使っての妨害行動という面倒なことをしてくれた亡国機業の方？ それとも最強の座でありながら攻撃を受けてしまったそうだつた千冬の方？

(まあ、ビリビリでもいいわ。)

やつ、どうでもいい。今やるべきことは一つだけなのだから。

(邪魔な奴らを、ぶつ飛ばす！)

翼についているハンデミサイルからミサイルを一斉発射し動きが遅いほうの丸い朱色の球体を肩、脚に付けそこから細長い竹の様な筒を伸ばした機体「 Primaria」を襲う。

黄色い色から爆発し赤い色に変わったミサイルはシールドエネルギーを喰らう。

爆煙から出でてきた「 Primaria」は爆煙で見えなかつたのか「 暮桜」の雪平によつて一線・一線と次々叩きこまれる。

「 ラファールリヴァイヴ」が呼び出したライフル（長さ1mで細長い箱）で「 暮桜」を離すことにつき成功するが、「 アブルホール」のバルカンビームには気づかず直撃してしまつた。

そのまま俺は「ラファールリヴィアイヴ」に突撃し変形して慣性を殺さずに蹴りを入れ「暮桜」の方に弾き飛す。

そして、「暮桜」は飛ばされてきた「ラファールリヴィアイヴ」の後ろから雪平を横に構えながら接近し、横に一線。

だが、後ろからの「Prim」のアサルトライフルの攻撃によつて追撃できなくなつてしまつ。

とそこで、エネルギーが少なくなつてきたのか雪平が淡い水色の光が消え実剣になつてしまつ。

また、見抜かれたのか両者がミサイルポッド（4つの砲門があるコンクリートブロックを大きくしたようなもの）からミサイルが放たれる。

この距離では、バルカンは減衰して威力をなくして破壊できるか怪しい・ビームライフルでは落とし切れない・ミサイルでは追いつかない。

（間に合え！）

俺は、セファーーラジエル（第五形態）を呼び出しプロトビットを展開させミサイルを撃ち落とす。

¹発逃してしまつたが「暮桜」は難なく避け、「Prim」に接近し零落白夜を使って機能停止に追い込んだ。

つてシールドエネルギーまだあつたのね・・・

「ラフアールリヴァイヴ」は動けなくなつた「Primaria」を抱えて撤退していく。

「・・・アキラ。なんでお前がT.Sに乗れる。」

じゅせり、あせつ過ぎたらじへバライザーをつけ忘れたらしい。

・・・なんて間抜けなんだ・・・おれ・・・

「あー。後で話せない? 一夏を救いださないといかないし。」

「・・・・・わかつた。」

しぶしぶと千冬は引き下がつてくれた。

誘拐事件（後書き）

いまさらですが、ガンダムの待機状態 といつよりも収納しているのは

アキラが胸から下げる懷中時計に収納しています。ちなみにエイダからの声もそこから出ています。

ちなみに「ラファールリヴィア イヴ」はこの時代の最新鋭I.Sで、「P·R·I·M·A」と同じく研究所から奪取されました。

何か長すぎる様な気がする。

原作より少し前

あの後、事件が収縮していったころに千冬がドイツに教官として来た時に、話をした。

伝えたことは

ガンダムはIISの技術を使っているがIISのシールドエネルギーや絶対防御がないという事・この事件はなかつた事にしてほしいという事。

シールドエネルギー や絶対防御がないと言った時、「貴様はアホか?」と言われたが・・・なんで?

黙っていることの理由としては、目立たたくないのとマスクの追求が嫌だったのだ。

「まあ、いい。お前が面倒なことが嫌いなのは知っているしな。」

「ありがと。」

と会話を終え、訓練に向かった。

そして、一年の訓練期間（教官期間かこの場合?）を、終え空港

で見送った。

それから、1・2年たち第三世代ISの制作が研究所に要求された。

俺は、ガンダムSEEDの「ストライク」・「フリーダム」
アーマドコア for Answerの「ホワイト・グリント」・
「ノブリス・オブリーージュ」

の設計図を提出。

そのうち、「スタライク」は第一世代と分類されたが（それでも量産機として開発を進めるらしい）他の三機は第三世代と分類されアメリカと共同開発する事となつた。

え？ なんでアメリカとだつて？

「ホワイト・グリント」「ノブリス・オブリーージュ」はヴァンガード・オーバード・ブースト(VOB)を装備することを前提に設計してしまつた。

そして計算上・・・第一宇宙速度でした。（地球にある衛星がある場所まで行ける速度）

原作では時速2000kmが普通だったが、ISの技術のシールドエネルギーを推進力にまわし、PIC（パッシブ・イナーシャル・キャンサラー）や重さがACとISではものすごい差がある、などいろいろな要因を含めた結果が、28400km以上のスピードがでたという・・・。

「キュリオス ガスト」・・・・・イラネンジャネ？

マジでそんなこと思いました。（趣味で作りますけどねーー）

で、ドイツ政府は宇宙開発が盛んなNASAと協力して作つていつた方がいいだろうといつ事で、アメリカ政府に頼んだらしい。

適正とか専用機にするかとかの話は置いといて実験機にするらしい。まあ、使いこなせる相手がいたらそれをベースに調整して専用機にするらしいが。

まあ、どんな事情があるのかないのかは知らないし・知りたくもないね。

原作で出てきたラウラの専用機「シュヴァルツェア・レーベン」

はドイツが国の象徴・威信にかけて独自開発するらしい。頑張つてもらいたいね。同じ研究者・技術者として。

で、今アメリカの研究所で「フリーダム」「ホワイト・グリント」「ノブリス・オブリージュ」をつくっている最中だ。完成度50%未満で背中の？状になる翼・砲身が隠されている翼・砲身 자체が翼や半身・プライラルアーマ（PA）ができるいない。

（プライラルアーマーはゴジマ粒子ではなく、シールドエネルギーを空気中に散布させバリアー状に機体に張り巡らせた。そのためシールドエネルギーを使い続けるが10分使い続けエネルギーが20減るか減らないかという高燃費。

効果はダメージを直撃したときよりもシールドエネルギーの減少率が低くなり装甲が壊れにくくなるといものだ。）

そして、同時開発しているためドイツの暇なフライラルさんも研究者やら技術者も来ている。

そいつらが「うひょー！　久々の兵器開発だぜ！」とか「魔改造してやんよ！」とか「はあはあ・・・」とか「すごすぎるぜ！　すごすぎて話にならねえよ大将！」と狂喜乱爛としていたが大丈夫か？

「　「　「　大丈夫だ！　問題ない！　」　」

と返してくれた。なら問題ない。

ちなみに提出した制作図には『全身装甲』だつたが、ISは象徴（多分だが女性の）といつ事もあるため、上腕や大腿（膝から股まで）・横腹・皿や頭部の装甲が撤去された。

で、研究所内の自動販売機の前にあるベンチでくつろいでいる。

「ふー。」

「くら開発やいじくるのが好きでも休憩は必要だああ…。

「うーん。やっぱスタビライザーも付けて重心移動とかも付け加えてみるかな？ いや、いつそブースターを増設させてスピード強化してしまつか？」

「いくら研究所内でもそういう機密事項ぽんぽん言わない方がいいと思うんだけど？」

いかんいかん思考が外に漏れ出しているみたいだ。と皿の前にいるのは鮮やかな金髪の女性。

「……一様身内でしょ！」
「

「スパイがいるかもよ？」

「あんたがスパイじゃねえの？ 見かけない顔だし警報鳴らしていい？」

と俺は隣にあつた警報装置（実験で失敗し危険な時・情報漏洩を防ぐなどの理由でいたるところに警報装置がある）のボタンに手を伸ばす。

「ちよつまつてええええ！」

「うるせえ。研究所に響いたんじゃねえの？」

「で？ あんた誰？」

「テレビとか雑誌とかに出てるでしょ！？」

「いや、忙しくて見てないし。」

「はあ。これだから研究者ってのは。」

何か馬鹿にされたな。気にしないけどさ。

「ナターシャ・ファイルスよ。国家代表の。」

そういえば原作でいたな。よく覚えていないが。

「で、その国家代表がなんで研究所にいるの？」

「あの子の様子を見に来たのよ。」

「あつや。」

「連れなのはねえ。そんなんじゃ一生彼女ができるはしないぞ？
アキラくん。」

「・・・なんで名前知ってんの？」

「フュイラちゃんが「すごい子が来ている。」って言つたからあの子を見るついでに見に来たんだけど、外見からじやすいなんてわからないわね。」

フュイラさんの知り合いか。

「だつたら様は済んだろ？ あの子の所に言つたらどう？ おれはあんますぐない根暗ニート志願者だよ」

「・・・・・・・謙遜はいいけど・・・ニートまだうかと思つわ。
人として。」

「俺のささやかな夢にケチつけないでください。」

「もう、本当にヒス4機の設計図書いた人とは思えないわ。」

「といかあれば趣味です。」

「趣味で工Sの設計書ける人どのへんのー？」

「とりあえず・・・俺含めて1000はないんじゃない？」

そんなことしてやうなドイツの研究者のこと思つて、他の国探し
ば結構な数になると思つ。

「いつからマジックな世界になつたのー?」

「わあ?」

「・・・まあ、いいわ。で、あなたに私の工房を見てもらいた
いんだけどー?」

「いや。」

「なんで?」

そんなん

「面倒だから決まつてるんじやん。」

「私からもお願ひしてこー?」と二つの間にかフロイドさんの登
場。

「・・・機密じやないんですか?」

「上層部にお願ひしたらこーつていらねたよ。とこつよつ見せて
強化しろって。」

「恩でも売つとかつてか?」

「強化するのは別ならこーにカビ。」

「じゃ行きましょーー。」

で、『銀の福音』（シルバリオ・ゴスペル）の所に来たまではいいのだが……。

「きれいだねえ。」

「まあ、シルバーですかうねえ汚くはないでしょ。」

「ひんやりしてそうだね。ちょっと触つてみよひよアキラくん。」

「え？ ちゅ、まつ……。」

不意を突かれてしまい。フロイラさんに腕を掴まれ（フロイラさん軍人並みの腕力持つてんじゃないの？と思ってしまう程の腕力）『銀の福音』に触れてしまい……。

「え？ イシが反応してる……？」

じ、ばれてしまひました。

メンデクサイナア

原作より少し前（後書き）

次回から原作介入

「クラスメイトはほとんど女」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7469y/>

I Sに変革者・・・の急け者

2011年12月21日20時15分発行